令和7年12月5日
体育・保健体育、健康、安全WG（第4回）
資料1－2

“体育（運動領域等）における系統性”

－幼児期からの発達の段階等を踏まえた指導内容のあり方－

【中央教育審議会　諮問】

＜顕在化している課題＞

① 主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

② 学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

③ デジタル学習基盤の効果的な活用

・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ
・2025年12月5日（金）
・日野克博（愛媛大学）

運動に関する課題

体育・保健体育、健康、安全に関する現状と検討課題

1．運動に関する課題

- 少子化を含む人口構造の変化や社会のデジタル化が加速する中、健康長寿社会や共生社会の実現、人との豊かな繋がりの創出など、運動・スポーツを通じた社会課題解決への期待が高まっており、令和7年にはスポーツ基本法が改正された。こうした状況を踏まえ、学校における運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値を今一度検討し明確化する必要がある。
- 幼児期からの発達段階を踏まえた系統的な指導と評価の在り方について、指導内容が過度に高度なものとなっていないか、また、評価は適切なものとなっているか、学校における運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値を踏まえ検討する必要がある。
- デジタル学習基盤の活用について「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図る観点からその方[illegible]をさらに検討する必要がある。

2．保健に関する[illegible]

- 教師の保健の指[illegible]の、子供を取り巻[illegible]に多岐にわたって[illegible]応できる資質・能力の育成が一層求められている。
- 日常生活において認識しにくい内容に関する知識及び技能や、健康の原則・概念と具体的な生活行動とを結び付ける思考力、判断力、表現力等の育成について課題が見られる。

3．安全に関する課題

- 安全に関する基礎的な知識の習得は高いものの、日常生活における多様な危険や事故に対して行動化する実践力の育成については課題が見られる。また、安全で安心な社会づくりに参加・貢献するため、主体的・協働的な取組を促す学習の充実について工夫と改善が求められている。
- 近年顕在化している社会構造の変化に伴う現代的課題を含めた様々な課題に対応できる資質・能力の育成が一層求められている。

4．指導に関する環境面の課題

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた着実な指導を行う上で、教[illegible]機関との連[illegible]調整等に関[illegible]して、場[illegible]
- 運動・スポーツに関する授業を安全かつ効果的に行うためには適切な活動場所等の確保が必要である一方、施設等の老朽化やスペース不足、天候への対応について課題が見られる。

幼児期からの発達段階を踏まえた系統的な指導と評価
- 指導内容が過度に高度なものになっていないか
- 評価は適切なものとなっているか

運動に関する課題

ワーキンググループにおける検討事項・論点

1．教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項

1．体育科・保健体育科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の示し方
- 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選のあり方
- 体育科・保健体育科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい示し方

2．体育科・保健体育科の指導と評価の改善・充実の

- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、体育科・保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策
- 資質・能力の育成のために効果的かつ過度な負担が生じにくい体育科・保健体育科の評価のあり方

3．誰一人取り残さず資質・能力を育む柔軟な教育課程のあり方

- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目の柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫のあり方
- 教育課程の柔軟化に伴って生じうる課題とそれを防ぐための運用のあり方

2．体育・保健体育、健康、安全に関する課題を踏まえた固有の検討事項

1．運動に関する課題

- 運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値の明確化
- 幼児期からの発達の段階等を踏まえた系統的な指導内容のあり方
- 指導内容として示してきた「態度 考え方
- デジタル学習基盤の効果的な のあり方

幼児期からの発達の段階等を踏まえた系統的な指導内容のあり方

関する分かりやすい示し方

3．安全に関する課題

- 学んだ知識を日常生活で行動化する実践力を身に付けるとともに、安全で安心な社会づくりに参加・貢献するため、主体的・協働的な取組を促す学習の充実
- 社会構造の変化に伴う現代的課題を含めた様々な課題に対応できる学習内容(教科等横断的な視点を含む)

4．1～3を実現する上での環境整備に関する課題

- カリキュラム・マネジメントの観点等を踏まえた、外部人材の活用や外部機関との連携
- 気候変動の影響等を踏まえた、運動・スポーツの実施機会・場所の在り方など、持続可能性の確保

運動領域等における系統性

体育科・保健体育科の系統性

小学校から高等学校までの12年間の系統性
発達の段階を踏まえて4年ごとのまとまりで指導内容を体系化

	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期					
	小学校						中学校		高等学校			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
運動領域等	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論			体育理論		
保健領域等			保　健				保　健			保　健		
年間授業時数等	102時間	105時間	105時間	105時間	90時間	90時間	105時間	105時間	105時間	体育 3年間で7～8単位 保健 1単位	保健 1単位	

必修　選択

7

運動領域等における系統性

※「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編」には、運動領域ごとに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の系統表が示されている。

運動領域、体育分野、科目体育の「知識及び技能」系統表（一部）

領域	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校第３学年 高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降	領域
体つくり運動系	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○体を動かす心地よさを味わう ○体の動きを高めたりする ※体ほぐしの運動 ・心と体との関係に気付く ・仲間と関わり合う ※体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動をする	○体を動かす楽しさや心地よさを味わう ○体つくり運動の意義と行い方，体の動きを高める方法などを理解する ○目的に適した運動を身に付け，組み合わせる ※体ほぐしの運動 ・心と体との関係や心身の状態に気付く ・仲間と積極的に関わり合う ※体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動を行う ・それらを組み合わせる	○体を動かす楽しさや心地よさを味わう ○運動を継続する意義，体の構造，運動の原則などを理解する ○目的に適した運動の計画を立て取り組む ※体ほぐしの運動 ・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付く ・仲間と自主的に関わり合う ※実生活に生かす運動の計画 ・ねらいに応じて，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組む	○体を動かす楽しさや心地よさを味わう ○体つくり運動の行い方，体力の構成要素，実生活への取り入れ方などを理解する ○自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て，実生活に役立てる ※体ほぐしの運動 ・心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付く ・仲間と主体的に関わり合う ※実生活に生かす運動の計画 ・自己のねらいに応じて，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組む	体つくり運動
器械運動系	○運動の楽しさや喜びを味わう ○行い方を理解する ○技を身に付ける ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う ・それらを繰り返したり組み合わせたりする ※鉄棒運動 ・支持系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う ・それらを繰り返したり組み合わせたりする ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行う ・発展技を行う	○技ができる楽しさや喜びを味わう ○器械運動の特性や成り立ち，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解する ○技をよりよく行う ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※鉄棒運動 ・支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを組み合わせる ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行う ・条件を変えた技や発展技を行う	○技ができる楽しさや喜びを味わう ○技の名称や行い方，運動観察の方法，体力の高め方などを理解する ○自己に適した技で演技する ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※鉄棒運動 ・支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う	○技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう ○技の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，発表の仕方などを理解する ○自己に適した技で演技する ※マット運動 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこ ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※鉄棒運動 ・支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行うこと ・それらを構成し演技する ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う ・それらを構成し演技する ※跳び箱運動 ・切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行う ・条件を変えた技や発展技を行う	器械運動
	○運動の楽しさや喜びを味わう	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方，体力の高め方，運動	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方，体力の高め方，課題	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わう ○技術の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，発表の仕	

運動領域等における系統性

運動領域、体育分野、科目体育の「思考力、判断力、表現力等」系統表（一部）

領域	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校 第３学年	高等学校 入学年次	高等学校 その次の年次以降	領域
体つくり運動系	自己の体の状態や体力に応じて，運動の行い方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える		生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	体つくり運動
器械運動系	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組合せ方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	技などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝える	技などの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝える		生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	器械運動
陸上運動系	自己の能力に適した課題の解決の仕方，競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	動きなどの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝える	動きなどの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝える		生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	陸上競技
			泳法などの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自		生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画	

運動領域、体育分野、科目体育の「学びに向かう力、人間性等」系統表（一部）

領域	小学校 第５学年及び第６学年	中学校 第１学年及び第２学年	中学校 第３学年	高等学校 入学年次	高等学校 その次の年次以降	領域
体つくり運動系	・運動に積極的に取り組む ・約束を守り助け合って運動をする ・仲間の考えや取組を認める ・場や用具の安全に気を配る	・体つくり運動に積極的に取り組む ・仲間の学習を援助しようとする ・一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする ・話合いに参加しようとする ・健康・安全に気を配る	・体つくり運動に自主的に取り組む ・互いに助け合い教え合おうとする ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする ・話合いに貢献しようとする ・健康・安全を確保する		・体つくり運動に主体的に取り組む ・互いに助け合い高め合おうとする ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする ・合意形成に貢献しようとする ・健康・安全を確保する	体つくり運動
器械運動系	・運動に積極的に取り組む ・約束を守り助け合って運動をする ・仲間の考えや取組を認める ・場や器械・器具の安全に気を配る	・器械運動に積極的に取り組む ・よい演技を認めようとする ・仲間の学習を援助しようとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする ・健康・安全に気を配る	・器械運動に自主的に取り組む ・よい演技を讃えようとする ・互いに助け合い教え合おうとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする ・健康・安全を確保する		・器械運動に主体的に取り組む ・よい演技を讃えようとする ・互いに助け合い高め合おうとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする ・健康・安全を確保する	器械運動
陸上運動系	・運動に積極的に取り組む ・約束を守り助け合って運動をする ・勝敗を受け入れる ・仲間の考えや取組を認める	・陸上競技に積極的に取り組む ・勝敗などを認め，ルールやマナーを守ろうとする ・分担した役割を果たそうとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする	・陸上競技に自主的に取り組む ・勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする ・自己の責任を果たそうとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする ・健康・安全を確保する		・陸上競技に主体的に取り組む ・勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切	陸上競技

体育（運動領域等）における系統性

＜検討課題＞

学校段階をまたぐ際の指導の系統性（つながり）

1）幼児教育と小学校教育の接続

→　「遊びを通した学び」のまとまり

→　発達特性を踏まえた指導（経験）

2）４・４・４のまとまりと学校段階の接続

→　小学校と中学校

→　中学校と高等学校

3）その他：運動領域等を柱にした内容構成

→　子どもの実態に対する指導内容の高度化

→　多様な楽しみ方や関わり方を学ぶ機会

1）幼児教育と小学校教育の接続

論点整理：幼児教育

幼児の遊びや生活に関する現状と課題

○意図的に用意しなければ、幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難になっている

○一部の幼児教育施設においては、幼児の興味・関心ではなく、ＳＮＳ等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなどし、幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘がある

考えられる方向性と論点①（幼稚園教育要領等関係）

1．直接的・具体的な体験の一層の充実

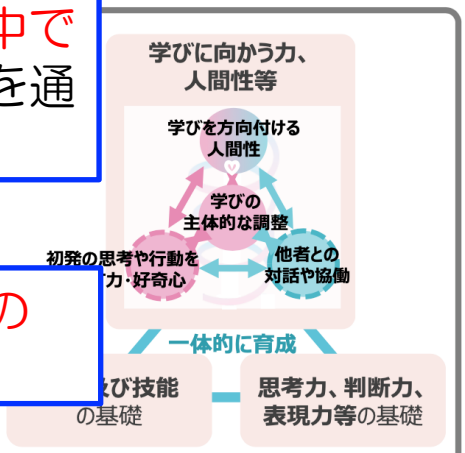
- どの幼児教育施設においても、幼児の自発的な活動としての遊びを通して資質・能力が育まれるよう、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を一層充実する方向性で検討すべき

2.幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進

解を図り、各園・校における学び始期（５歳児から小学校１年生の２年間）のカリキュラムの作成やスタートカリキュラムの充実等の取組も含め、円滑な接続を一層推進する方向性で検討すべき

幼児教育における遊びの中での直接的・具体的な体験を通した学び

小学校以降の生活や学習の基盤となる



※補足イメージ７－⑦参照

【具体的な方策】

・子供の資質・能力を育む学びの連続性を明確にするため、幼稚園教育要領等においても、学習指導要領との連続性を表形式やデジタルを活用して示していくべき

・子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」と小学校以降の授業改善の取組について相互理解が図られるよう、幼小中高の指導方法の趣旨の一貫性を明確にすべき

※幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の改訂等に向けて、こども家庭庁と緊密に連携しながら一体的に検討を進めていく

1）幼児教育と小学校教育の接続

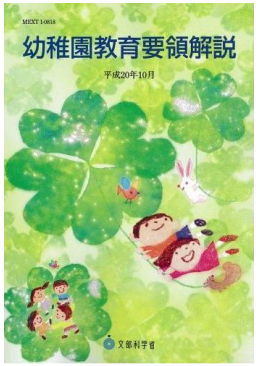
幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小学校						中学校		高等学校			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論		体育理論			

1）幼児教育と小学校教育の接続

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小学校						中学校		高等学校			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論		体育理論			

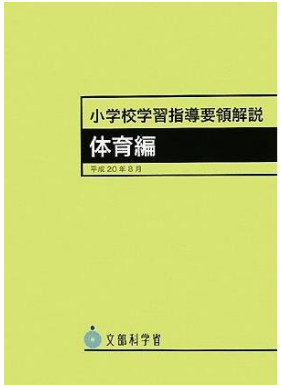
遊びを通して学ぶまとまり

1）幼児教育と小学校教育の接続



幼児教育

幼児期の発達特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本

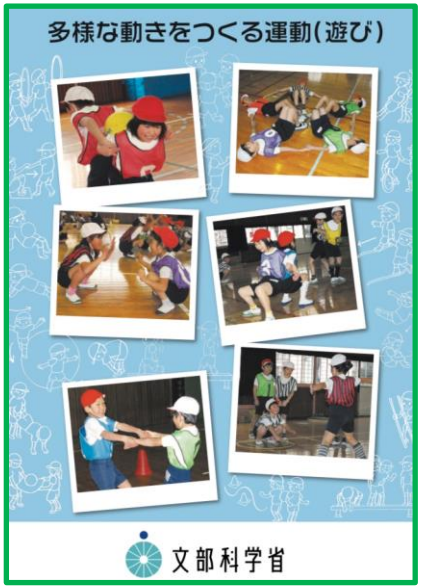


小学校教育

運動遊びの楽しさに触れる
遊び方を工夫する

幼児期の運動遊び

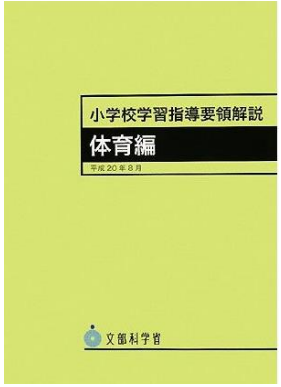
低学年の運動遊び



1）幼児教育と小学校教育の接続

幼児教育

幼児期の発達特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本



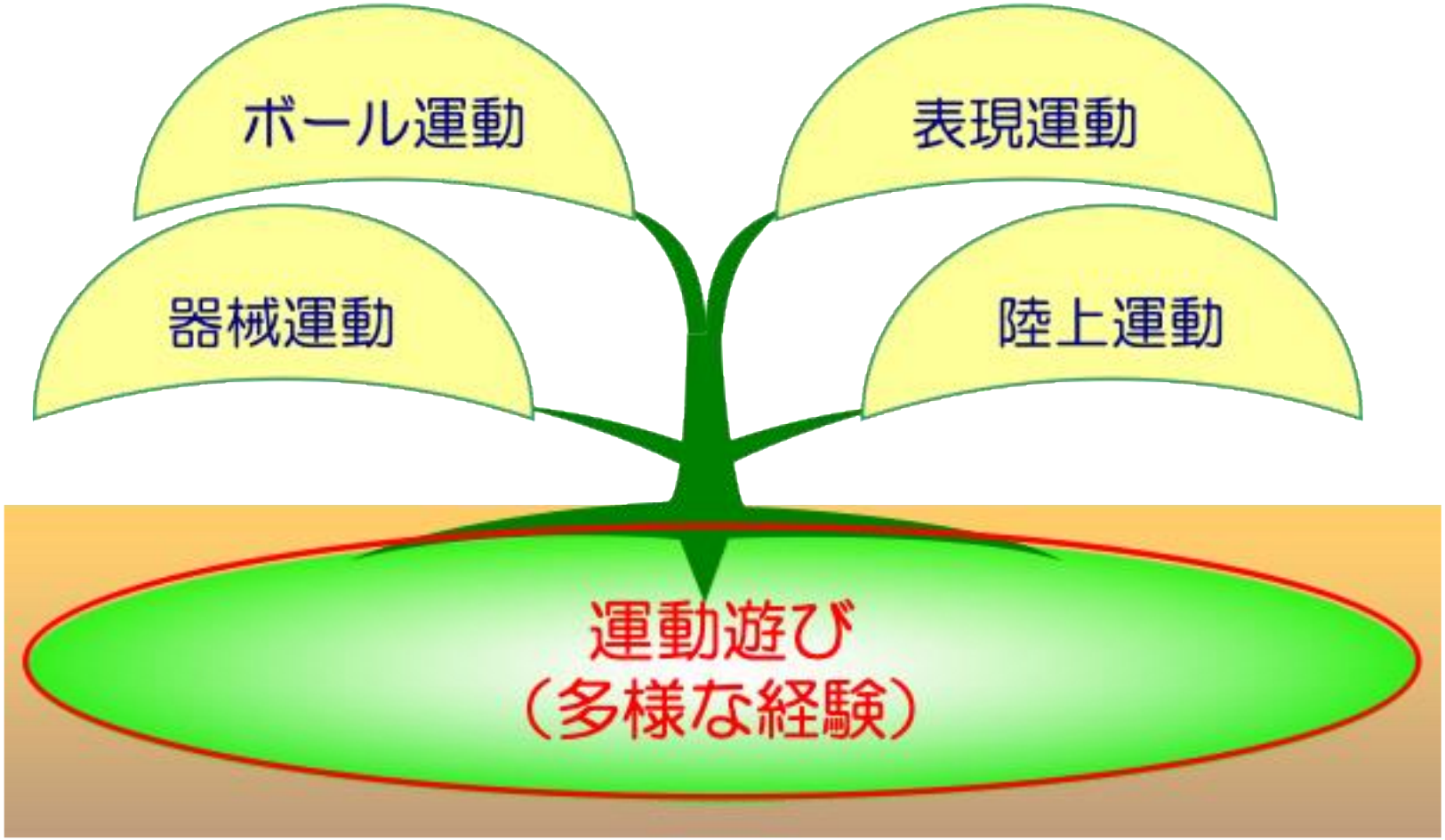
小学校教育

運動遊びの楽しさに触れる
遊び方を工夫する

幼児期の運動遊び

低学年の運動遊び

1）幼児教育と小学校教育の接続



＊幼児期及び小学校低学年期は、運動遊びの多様な経験を通して、その後の運動を支える土台（根）を育む時期

体育（運動領域等）における系統性

＜検討課題＞
　学校段階をまたぐ際の指導の系統性（つながり）

1）幼児教育と小学校教育の接続
　→　「遊びを通した学び」のまとまり
　→　発達特性を踏まえた指導（経験）

2）４・４・４のまとまりと学校段階の接続
　→　小学校と中学校
　→　中学校と高等学校

3）その他：運動領域等を柱にした内容構成
　→　子どもの実態に対する指導内容の高度化
　→　多様な楽しみ方や関わり方を学ぶ機会

2）学校段階の接続

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小学校						中学校			高等学校		
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論		体育理論		体育理論	

2）学校段階の接続：小学校から中学校へ

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期				
	運動遊び・運動						スポーツ				
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論		体育理論			

2）学校段階の接続：小学校から中学校へ

小学校：学習指導要領・解説（簡易化されたゲーム）

(1)　知識及び技能

(1)　次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技能を身に付け，簡易化されたゲームをすること。

ア　ゴール型では，ボール操作とボールを持たないときの動きによって，簡易化されたゲームをすること。

イ　ネット型では，個人やチームによる攻撃と守備によって，簡易化されたゲームをすること。

ウ　ベースボール型では，ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって，簡易化されたゲームをすること。

簡易化されたゲームとは，ルールや形式が一般化されたゲームを児童の発達の段階を踏まえ，実態に応じたボール操作で行うことができ，プレイヤーの人数（プレイヤーの人数を少なくしたり，攻撃側のプレイヤーの人数が守備側のプレイヤーの人数を上回るようにしたりすること），コートの広さ（奥行きや横幅など），ネットの高さ，塁間の距離，プレイ上の制限（攻撃や守備のプレイ空間，触球方法など），ボールその他の運動用具や設備など修正し，児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。

2）学校段階の接続：小学校から中学校へ

中学校：学習指導要領解説（球技：第１学年及び第2学年）

イ　ネット型

ネット型とは，コート上でネットを挟んで相対し，身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。ネット型の学習においては，ネット型の種目に共通する動きを身に付けることが大切である。

第１学年及び第２学年ではラリーを続けることを重視し，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。

指導に際しては，空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追究しやすいように，プレイヤーの人数，コートの広さ，用具，プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ，ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習に取り組ませることが大切である。

2）学校段階の接続：小学校から中学校へ

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	運動遊び ・ 運動								スポーツ			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		ボール運動		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論			体育理論		

2）学校段階の接続：小学校から中学校へ

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期	多くの領域の学習を経験する時期	卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期
	小学校	中学校	高等学校
健康 人間関係 環境 言葉 表現			

▲ 運動やスポーツを教える

○ 運動やスポーツの楽しさや価値を子供が実感できるようにする

↓

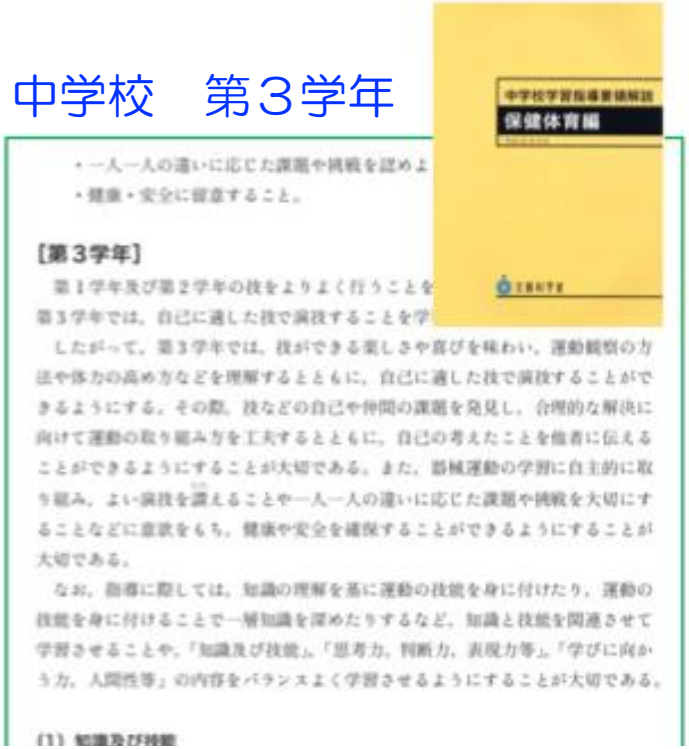
豊かなスポーツライフ → 幸福な人生 よりより社会

2）学校段階の接続：中学校から高等学校へ

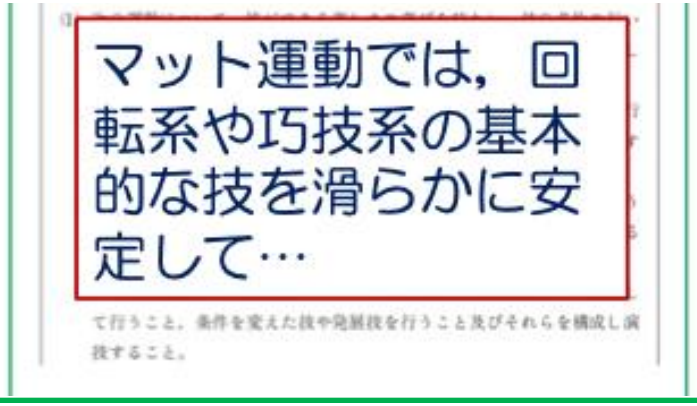
幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小学校						中学校				高等学校	
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論		体育理論		体育理論	

2）学校段階の接続：中学校から高等学校へ

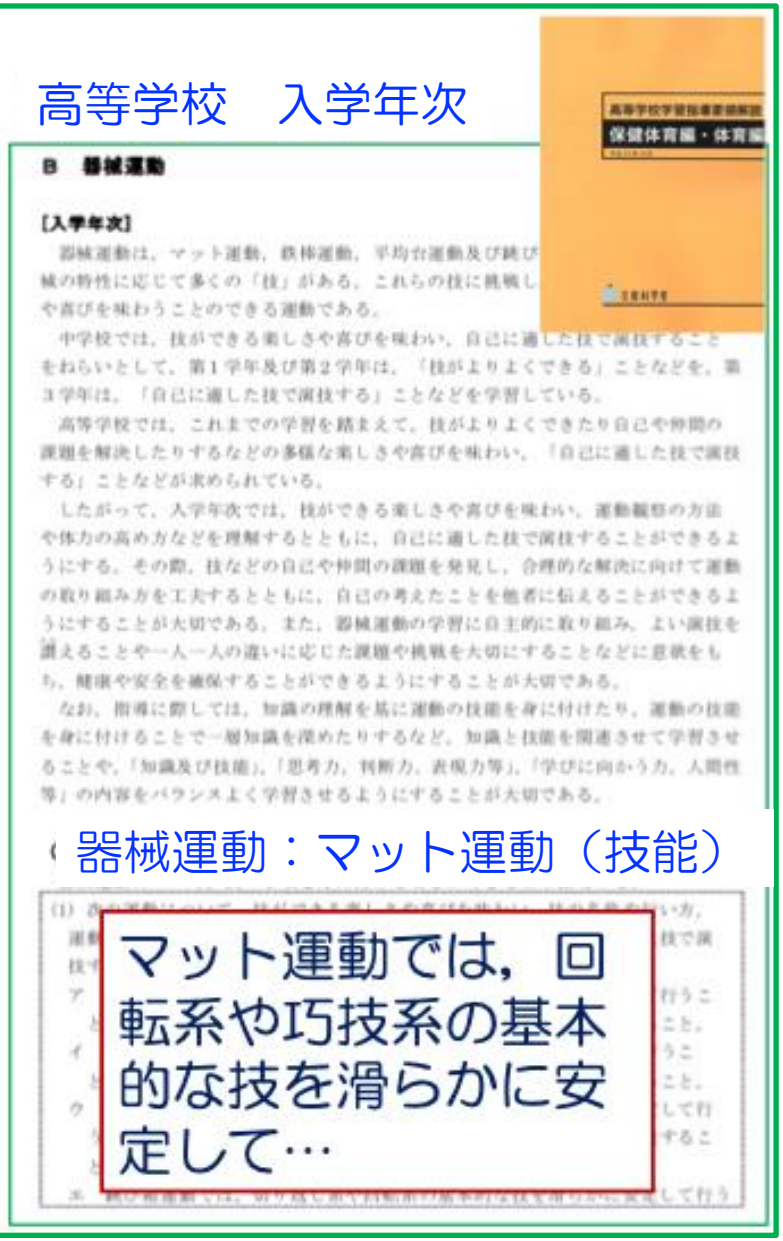
中学校　第３学年



器械運動：マット運動（技能）



高等学校　入学年次



2）学校段階の接続：中学校から高等学校へ

体育科・保健体育科の領域及び内容の取扱い等

学校種別	小学校				中学校			高等学校		
教科名	体　育				保健体育			保健体育		
学年	1・2	3・4	5・6		1	2	3	1※	2※	3※
領域及び内	体つくりの運動遊び	体つくり運動		A　体つくり運動	○	○				
	器械・器具を使っての運動遊び	器械運動		B　器械運動（種目選択）	○		BCDG から①以上選択	BCDG から①以上選択	BCDEFG から②以上選択	BCDEFG から②以上選択
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	C　陸上競技（種目選択）	○					
	水遊び	水泳運動		D　水泳（種目選択）	○					
				E　球技						

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期

中学校第３学年から選択制

体育（運動領域等）における系統性

＜検討課題＞
　学校段階をまたぐ際の指導の系統性（つながり）

1）幼児教育と小学校教育の接続
　→　「遊びを通した学び」のまとまり
　→　発達特性を踏まえた指導（経験）

2）４・４・４のまとまりと学校段階の接続
　→　小学校と中学校
　→　中学校と高等学校

3）その他：運動領域等を柱にした内容構成
　→　子どもの実態に対する指導内容の高度化
　→　多様な楽しみ方や関わり方を学ぶ機会

3）運動領域を柱にした内容構成

幼稚園	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
	小学校						中学校			高等学校		
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
健康 人間関係 環境 言葉 表現	体つくりの運動遊び		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動	
	器械・器具を使っての運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水　泳		水　泳		水　泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球　技		球　技		球　技	
							武　道		武　道		武　道	
							体育理論			体育理論		

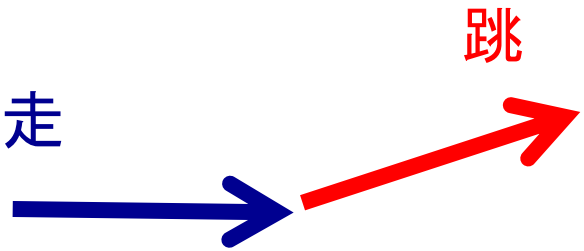
3）運動領域を柱にした内容構成

＜陸上運動・陸上競技　跳躍系＞

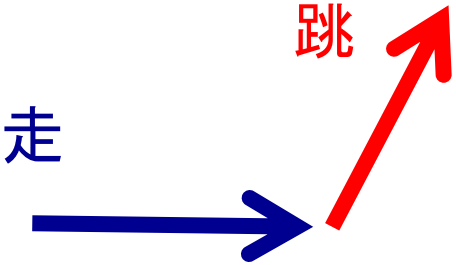
共通の学習内容（技能）

助走の勢いを生かして，
踏み切って 遠く/高く 跳ぶ

→「走る＋跳ぶ」（踏み切りからの跳躍）



走り幅跳び



走り高跳び

3）運動領域を柱にした内容構成

走り高跳び（技能）

小学校 ５・６年	リズミカルな助走から 踏み切って　　跳ぶ
中学校 １・２年	リズミカルな助走から 力強く踏み切って　　大きな動作で跳ぶ
中学３年 高校入学	リズミカルな助走から 力強く踏み切り　滑らかな空間動作で跳ぶ
高校その 次の年次	スピードのあるリズミカルな助走から 力強く踏み切り　滑らかな空間動作で跳ぶ

3）運動領域を柱にした内容構成

走り高跳び（技能）

小学校 ５・６年	リズミカルな助走から 踏み切って　　跳ぶ
中学校 １・２年	リズミカルな助走から 力強く踏み切って　　大きな動作で跳ぶ
中学３年 高校入学	リズミカルな助走から 力強く踏み切り　滑らかな空間動作で跳ぶ
高校その 次の年次	スピードのあるリズミカルな助走から 力強く踏み切り　滑らかな空間動作で跳ぶ

＊動きの質を高める

（リズム　→　アクセント　→　スピード）

拍子　　強弱　　速さ

3）運動領域を柱にした内容構成

【実践課題】

＊同じ領域を繰り返して学習している
（指導内容・学習内容の重なり）

＊学校段階や学年段階があがるごとに
指導内容が高度化している
（子どもの実態に合っていない場合も）

＊新しいスポーツとの出会い
（スポーツの多様な楽しみ方・関わり方）

3）運動領域を柱にした内容構成

高等学校学習指導要領　体育編

2　科目編成と標準単位数

（1）科目の編成

体育科の科目の編成は，理論及び課題研究に関する科目とスポーツに関する科目に大別した上で，理論及び課題研究に関する科目は，「スポーツ概論」，「スポーツ総合演習」で示し，スポーツに関する科目は，スポーツの特性や魅力に応じて「スポーツⅠ」から「スポーツⅥ」で示している。

以上の科目を，学習指導要領に示した順序に従って挙げると次のとおりである。

第１　スポーツ概論
第２　スポーツⅠ（採点競技及び測定競技）
第３　スポーツⅡ（球技）
第４　スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技等）
第５　スポーツⅣ（ダンス）
第６　スポーツⅤ（野外の運動）
第７　スポーツⅥ（体つくり運動）
第８　スポーツ総合演習

3）運動領域を柱にした内容構成

高等学校学習指導要領　体育編

【スポーツⅠ】 (1) 採点競技への多様な関わり方 (2) 測定競技への多様な関わり方	スポーツⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳから①以上選択	スポーツⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳから①以上選択	スポーツⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳから①以上選択	(1)又は(2)を選択
【スポーツⅡ】 (1) ゴール型球技への多様な関わり方 (2) ネット型球技への多様な関わり方 (3) ベースボール型球技への多様な関わり方 (4) ターゲット型球技への多様な関わり方				(1)～(4)から①以上選択
【スポーツⅢ】 (1) 武道への多様な関わり方 (2) 諸外国の対人的競技への多様な関わり方				(1)又は(2)を選択
【スポーツⅣ】 (1) 創造型ダンスへの多様な関わり方 (2) 伝承型ダンスへの多様な関わり方				(1)又は(2)を選択

さいごに

【今後の検討課題】

＊学習指導要領の構造化・表形式化への対応
（学校段階 or 学校段階を越えたつながり）
（「知識・技能」　「思考力、判断力、表現力等」）

＊高次の資質・能力 の具体的検討
（どのレベルで示すのか … 運動領域、型・種目）

＊実現可能性の確保
（理念や趣旨をどうわかりやすく伝えるか）
（多様性を踏まえた目標、内容の検討）